

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1296700014		
法人名	有限会社 かづみ		
事業所名	グループホーム 時の村14号館		
所在地	千葉県長生郡睦沢町川島757-3		
自己評価作成日	令和6年1月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.homes.co.jp/facility/basic/f=44886/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和6年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度はコロナで中止していた行事などが開催され、地域の皆様と一緒に参加した「子供みこし」町開催の「ふるさと祭り」を見学が出来たこと、花見・外散歩・イベント食作り、これからご利用者様と地域の行事や施設開催の行事を楽しんでいただけるよう取り組んでいきます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の基本理念に於いて、利用者の基本的人権の尊重と自立支援を重視している。利用者が自分でできることは、自分でしてもらおう支援をしている。例えば、トイレで立位のできる方には声掛けをして立ってもらったり、居室の掃除を自分でできる方には自分でしてもらっている。このように利用者の尊厳を尊重し、自立した生活をサポートしている。コロナが5類になったことで、町職員や地区長からの案内を受け、睦沢町制施行40周年を記念したふるさと祭りを見学したり、川島地区の子供神輿をホームの庭でもんでもらったりした。毎日の食事メニューに変化をつける上で、毎月「イベント食」と称して普段と異なるメニューを提供し、利用者からの要望で釜めし、寿司、牛丼弁当などの出前を取って皆で楽しんでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者が充実した生活を送り、生きがいを持って暮らせるようにしている。申し送りノートや会議等で折に触れ職員への周知徹底を図っています。	基本理念の中で、利用者の基本的な人権の尊重や自立支援に重きを置いている。利用者が自分で行えることは自分でやらせようように努めている。例えば、トイレで立位ができる人には、声掛けをして立ってもらっている。このように、利用者の尊厳を尊重し、自立した生活をサポートしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議などで、睦沢町職員様や川島地区区長様より行事のご案内を頂けるので参加させて頂いています。	コロナが5類になったことで、町職員や地区長から案内をもらい、川島地区の子供神輿をホームの庭でもんでもらったり、町主催の睦沢ふるさと祭りを見学したりしている。ホームの向かいの方が消防団長をしており、見回りに来てくれて顔を見ると声をかけてくれる。また、地域の方々が施設見学に来てくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の民生委員、同じ班内の方が施設見学されました。施設では		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には町職員、区長、民生委員、ご家族等に行事の参加や外出の支援など報告しています。本年度は外出の機会が多くありました。	コロナ禍で書面で行っていた運営推進会議を3月から対面で行うようになり、2か月に1回の頻度で計6回開催している。会議の中で、赤十字に入っている家族から、災害などで困ったことがあれば手伝う旨の申し出があった。また、片付けに対しての声掛けも行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者様とはその都度相談等させてもらい行事等の開催、ボランティアさまの参加に関しても情報をいただいています。	健康福祉課や高齢者支援課との連絡を密に取り、ホームの実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えている。書類を持参した際には、行事やボランティアに関する情報をもらっている。地域包括とは常に連絡を取り合い、空き室情報等を共有している。生活保護者がいるため、管理者は毎月医療券をもらいに役場へ行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修は本部より定期的開催して職員に周知しています。	職員会議では、ホーム内で起きた具体的な例を挙げ、身体拘束に該当するかどうかを話し合い、意識を高めている。本部の研修担当者が定期的にビデオを見ながら身体拘束に関する質問を職員に投げかける研修を行っている。例えば、食事前に「すわって」という指示は、拘束に該当するか否かを考える場面について質問を行うなど。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員と利用者様の関係はその都度声かけをしながら支援しています。対応の難しい方にはその都度職員を変えながら対応し職員の精神的な負担も少なくし利用者におだやかに接するように心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修者による説明会により、職員全体のレベル向上に努め、活用するようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用申し込み時に契約書等の説明を行い、理解して頂いた上で契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に訪れた利用者家族、電話での問い合わせ時なども近況は常に報告相談させていただいております	家族からの意見・要望は殆ど無いが、利用者調査では、「衣類や雑貨等、入所当時の物なので用が足りているかが心配です」との声があった。散歩を希望する利用者には、銀杏並木や近隣の区民センターの桜を見に行くなど、様々な活動を提供している。家に帰りたいという利用者には、家族と連絡を取り、家で食事を共にし、その後帰ってきてもらった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議などで提案等は話し合いの機会を設け、職員がなんでも意見を話しやすくなるように努めています。	毎月行う職員会議では、一方的に議題を決めるのではなく、職員会議の前に議題の提出を求めている。例えば、ビニール袋の使い方の統一やゴミ袋の変更、家族に対する衣類の持参(足りないため)など、細かい事項が多く提案されている。仕事内容について統一がないと、職員の変動ごとに不備が生じたり、良かれと思って行ったことが、人によって異なるため、職員同士で話し合いを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人の動きが激しい割には、就業環境は現場任せになっている為、事業所内で努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は内部研修や職員同士の教え合うなどで介護現場で取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ事業所との交流により情報共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員間でその方の情報をもとに、対応の仕方を話し合いながら支援の工夫を心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントシートや家族との話し合いで不安・要望等を聞き、関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の意向を聞きながら、ご本人の望む生活が出来る様に毎日の生活の中で変化に気が付くように心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ時間を過ごすことで変化に気が付き職員間で情報を共有しています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時はご本人の状況を報告し、ご家族からの要望や意見をいただくようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時などにご家族からお花、写真、季節ごとのカードなどの提供があり、ご本人に分かるように説明しご家族とのつながりを支援しています	面会時に家族が持ち込んだ花を居室に飾ったり、手作りの布でできた写真盾を飾ったりしている。親戚や孫と近所の方で利用者に会いたいという方と一緒に面会に来て、利用者が分からなかったということもある。年末年始にかけて自宅へ1泊で帰る利用者もいる。受診の際に花の見える場所を選んで通院することもある。睦沢ふるさと祭りを4人の利用者と見に行った。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で共通の趣味、楽しみを見つけ共通の話題が持てるように支援していきます。歌を歌うことは共通の楽しみです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族も市・町を越えて地元に住んでおられないことが多いので断ち切れる方が多くなっているのが現状です。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約時には本人・家族から意向や希望は聞き・生活歴・身体状況を確認すると共に、必要に応じて医療機関等より情報を取り入れ支援に繋げるうに心がけています	一人ひとりの特徴を把握し、適切な対応を心がけている。例えば、花の好きな人には、家族や職員が持ち込んだ花を部屋に飾ってあげる。意思表示が難しく、バルーンの入っている人には医師からの指導を受けて、適切な対応をしている。物を大切にしている人には、衣類のしまい方などを本人のやり方通りに行うことで、本人は安心している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談・入所時に生活歴や暮らし方を聞き取り、入所時には馴染みの品を持ってきて頂いたり、生活しやすい環境にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルサイン、排便、排尿状況の把握や歌唱、描画を進めて現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを含め、本人もしくは家族を含めた担当者会議を開催しており、意向を含めた介護計画を作成している。必要に応じて、医療機関や他職種との連携で意見を取り入れと入居者のニーズの把握に努めています。	利用者のニーズに合った適切なケアプランを提供するため、チーム全体で連携している。ケアプランの見直し時の担当者会議には家族も参加してもらい、家族からの意見も尊重している。看護師、往診医、歯科医、理学療法士と相談しながらケアプランを見直すようにし、それぞれの専門知識を活用し、最適なケアプランを策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、申し送りノート、会議、ヒヤリハット、日々の行動や職員間の情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に合わせ、チームケアを取り入れながら、柔軟な対応が出来る様に心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設やご家族、近隣の皆様と交流し催し物の参加でご本人の楽しみを支援することに努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に希望のかかりつけ医の受診で家族に相談、報告しながら本人、家族の意向を踏まえ受診、往診を依頼しています。定期的に、歯科医の往診も実施しています。	内科に関しては一元化を図っているため、入居前のかかりつけ医から紹介状を受け、提携医に切り替えている。入居前から通っている脳神経外科では、通院時に家族の協力を得ている。また、本社から毎週看護師の訪問があり、利用者の健康チェックを行い、何かあれば主治医に連絡できるようなアドバイスを受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な看護師の訪問で状況報告、指示をもらっています。毎月2回提携医療機関の往診や、他の医療機関受診を定期敵に行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の看護師、介護職とコミュニケーションを取って、退院後に備えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化、終末期における意向の確認を行っていますが、状況を見ながら、適宜、再確認を行い、終末期においてご家族の心境の変化も柔軟に受入っています	契約時に重度化・終末期に対する意向は確認するようにしているが、実際の段階になった時点で再度家族を交えて医師との確認が行われている。いざという時に看護師が慌てないように前もってマニュアルを配布し、熟読してもらうようにして対応に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当のマニュアルはあります。判断が難しい時には、看護師に常時連絡が取れる体制になっています。119番の依頼を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	本年度は昼間想定、夜間想定での避難訓練ができたこと、新職員も参加してもらい共通認識ができました。地区の消防団の方々の協力ができる関係を築いています。	隣が消防団の団長の家であり、普段から相談に乗ってもらっている。今年度は9月に夜間想定、12月には日中の想定の下で避難訓練を行った。利用者も避難口まで移動し、訓練に参加している。消防署の立会いのもと、新人職員が水消火器を使った消火訓練も実施した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけの難しさは職員の共通な思いがあります。プライドを思いやることを考えながら支援を考えています。特にトイレ誘導は声掛けには注意しています	利用者の尊厳を守るという意味からも、人前で大きな声で話さないように注意している。ホームとして、日々利用者と接する際にユマニチュードを重視しており、利用者にとって、ユマニチュードを取り入れたケアは当然のこととなっており、それを行わないと拒否反応が起こる可能性も出てくる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	プライバシー保護、接遇等、コミュニケーションを取り、情報共有する。ユマニチュードを取り入れ個別ケアの徹底に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は特に決めてなく、自由に過ごしていただいています。天気の良い日には、日当りの良い場所で日光浴を勧めたりしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援	起床時の整容などはきちんとできるよう支援して清潔を保ち、衣類は汚れが無いよう心がけています。また外出時などは髪を整えること。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月のイベント食には利用者様の要望をとり入れたり、お手伝いのできる方には参加してもらっています。いつも副菜をのこす方でも完食しています	毎日の食事メニューに変化をつけるうえで、毎月「イベント食」と称して普段と異なるメニューを提供している。イベント食には、普段の会話から利用者がどんな食べ物を希望しているかを聞き出し、反映させている。その中には、釜めし、寿司、牛丼弁当の要望もあり出前を取って皆で楽しんだこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	宅配の栄養士が作成した献立に、食事や水分量はケース記録に記入し、利用者様の状態の変化に応じて食事形態も変えています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の訪問診療を受けています。口腔内の異常の場合はその都度相談指示をもらっています。それぞれに合った口腔ケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄を促しますが、立位不安定や指示が入らない方には職員2名対応しています。排泄表の活用	トイレでの排泄を自然なものとして捉え、そのサポートに努めている。立位が難しい方には、職員2人が協力して介護を行っており、一人が抱え、もう一人がズボンを下す役割を担当している。各人の排泄と水分量を毎日記録し、排泄がスムーズにいくようにお腹のマッサージを取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェック表・牛乳製品摂取・散歩や体操など、個々に応じて取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様に無理強いはせず、本人の意志を確認、体調も考慮してから行っています。定時のバイタルのほかに入浴前にもバイタル測定を行い安全を確認しています	入浴前にバイタルチェックを実施し、体調の悪い方には衣類だけ交換し、陰部の清拭だけを行うこともある。脱衣所で裸になった際に、怪我や健康状態を職員は必ずチェックすることを心掛けている。また、利用者が季節を感じ取れるよう、柚子湯を提供したり、入浴を楽しむための工夫を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室にエアコンを完備しており、日中居室で休まれる方への対応や夜間の室温調整を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の処方箋に従い、誤薬の無いように本人と薬の確認を行いながら、飲み込みを確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、新聞折、散歩、レクリエーション等で、気分転換の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はご家族の協力もあり、ご自宅への外出や、地区の催し物の参加が出来ました。川島地区の「子供神輿」見学で施設の庭に出て近隣の方と交流もできました	家族が社会福祉協議会から車いすの使用可能な車を借りてきて、利用者を家に連れ帰り、外出を楽しんでいた。睦沢町制施行40周年ということもあり、お祭りが盛大に行われ利用者も出かけて楽しいひとときを過ごすことができた。この時は、御輿も出てホームの庭まで入ってきて、庭先から御輿を見ることができた。1月には睦沢町主催の講演会に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、対象となる利用者はいませんが、出来るだけ支援するように努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	重度の利用者が多い為、今のところはできていませんが、今後は働きかけるよう努めていく予定です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	東側の廊下で日向ぼっこを習慣にしていた方は多くいました。日当りの良い所での場所が利用者の憩いの場となっており、思い思いに生活ができるような空間を確保しています。	東側の廊下では日向ぼっこをしながら、利用者同士が会話を楽しんでいる姿が見受けられる。裏庭にはアケビが実っており、秋の季節感を感じながら昔を思い出している様子であった。リビングで過ごす際に、季節感を忘れないように職員は会話の中で季節に関する話題を取り入れるように心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人部屋なので、リビング、廊下等で、疲れた際は部屋にて休んでおられます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のなじみのもの、アルバム、家族写真、花、ぬいぐるみなど居室を飾っています。寒がりの方は電気毛布持ち込まれていますが、こちらで調整しています	馴染みの物を持ち込んでおり、その中には若い時の写真も含まれている。職員との会話で、写真から利用者がどこにいるか尋ねると、喜んだ顔で指をさしてくれる。穏やかな雰囲気や居室に醸し出される一時となっている。また、自分の部屋を間違えないよう、入口に名札を掛けることで安心感を与えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物が、バリアフリー、広い廊下、段差のない床と安全な環境の中で生活ができる様、整備しています。		